

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2: 地域情報拠点としての整備	② 施策番号	7702
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1: すべての人が暮られ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4: だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2: 生涯学習内容の充実		
⑥ 担当部署	⑦ 担当課名		
教育部	文化振興課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民(市内在学、在勤者を含む)、子育て関係機関、学校、市民ボランティア、読書会の団体
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	図書館資料や情報の収集と提供、調査相談、障害者・高齢者に対するサービスなどを通じて、市民の生涯学習活動や教養文化の向上を図る。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	平成13年「子どもの読書活動の推進に関する法律」、平成17年「文字・活字文化振興法」が施行され、読書推進が法制化。平成27年の学校図書館法改正により、学校司書と連携した読書推進、学力向上の取組みが、今後一層求められる。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	貸出冊数	冊	図書館統計の指標であり、また、図書館利用の重要な基準である。
	計算式:		
②		件	
	計算式:		
③		件	
	計算式:		

指標名	単位		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 貸出冊数	冊	目標値	390,000	390,000	390,000	390,000	390,000	
		実績値	374,626	356,557	345,911	—	—	
		達成率	96.1%	91.4%	88.7%			
② 来館者数	人	目標値	—	130,000	130,000	130,000	130,000	
		実績値	127,861	127,314	117,198	—	—	H28年度からカウント
		達成率		97.9%	90.2%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方針
1	図書館運営事業	貸出冊数	冊	356,557	345,911	—	56,356	56,382	56,319	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						56,356	56,382	56,319			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	市民の読書及び図書館資料に関する要望に応え、市民が考え、学び、楽しみ、自己決定していくための多種多様な資料・情報を提供することで、知る自由を公的に保障し、地域の情報拠点としての役割を果たすことで、生涯学習内容の充実に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	貸出冊数は年々減少している。 貸し出しを行わない利用者も多く(新聞購読者・資料の閲覧者・社会見学者等)数字としては表れにくいところもある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	市民ボランティアや各種団体等と協働することで、図書館サービスの充実、利用促進につながるため、適切であると考えます。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	図書館運営事業をより効果的に進めるため、適正であると考えます。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	様々な読書活動推進事業を展開するため、図書館運営事業を重点化する事業とし、また、司書の専門性向上、課題解決、図書館間における資料の相互貸借をスムーズに行うため、大阪公共図書館協会や日本図書館協会の参画事業も必要と考える。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	限られた予算の中で、団体サービスの拡充や自動車図書館の効果的な運用を図り、市民の身近な施設として、図書館サービスを楽しむことができるようにすること。また、子ども読書活動推進計画に基づいた事業の拡大を図るため、関係機関や団体と連携した効果的な図書館運営が必要である。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	子育て世代や高齢者に向けた取り組みや、障害者サービス、学校支援事業等のサービスを重点化し、市民や各関係団体・部署と連携していく。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	国や府の動向を注視しつつ、求められる必要な事業に取り組むため、関係部署との交渉を行っていく。
中長期的対応 (3~5年をめどに取り組む改善案)	施設改修や、図書館電算化システム更新、自動車図書館更新等、大規模な予算を伴うものについては、十分精査した上で、予算要求を行っていく。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	地域の情報拠点としての活動が適切に行われている。利用状況を分析するなど、市民ニーズに対応した情報拠点として関係団体や部署と連携を進めながら取組を引き続き進められたい。 また施設については計画的保全に努め、情報拠点施設としての適切な維持管理費を継続して進められたい。	